

家康の生まれたお城のある町、岡崎のルーツ

# 連尺学区

RENJAKU



## 連尺小学校から 新世紀岡崎に伝えたいメッセージ



6年生(平成27年度) 川口 真弥

岡崎には伝統と文化が詰まっていて自慢できるものがたくさんあります。岡崎城、二七市からイベント盛りだくさんの図書館交流プラザりぶらなどです。上手に全国に発信できれば、もっと多くの人が関心をもち、足を運んでくれると思います。

6年生(平成27年度) 杉坂 達也

町の中心には高層マンションが目立つようになり、逆に緑が少なく感じます。もっと木を植える活動をしてはどうでしょうか。また、町にはスポーツ活動が少ない気がします。有名なスポーツ選手を呼んで、スポーツ教室をたくさんしてみるのはいかがでしょうか。

6年生(平成27年度) 辻村 美樹

「岡崎まぜめん」が確実に岡崎の自慢できる名物となっています。八丁味噌を含め、岡崎の名物をもっと宣伝してほしいです。例えば、バスの側面の絵や車内の掲示板に入れたい、桜まつりや市民まつりに屋台を出して人気を競争したりしてはどうでしょうか。



2年生 生活科 町たんけん



ボランティア感謝の集い



### 編集後記

連尺学区は、官庁と商人の町として発展し、連尺小学校も昭和41年に移転、跡地は図書館交流プラザりぶらとなりましたが、中心部はいろいろ変遷しました。作成委員会は、学区の独自性を出すため文献に頼る事なく、ヒヤリングを中心に努力しました。多くの思いが語られましたが、割り当てられた8頁内には紹介しきれませんでした。学区の歴史の深さを痛感した次第です。大型店舗が郊外に多くでき商店街もしばらく元気をなくしていましたが、大型マンションが増え、子育てに良好な環境から若い方が多く転入され、高齢者には終のすみかとして人気を博しています。乙川リバーフロント地区整備計画による商店街の活性化に向けた施策も検討されています。

「家康の生まれたお城のある町、岡崎のルーツ」・・・「住みたい学区ナンバー 1」を目指し22町の紹介も折り込みました。ぜひ一読ください。

〔作成委員会〕 会長：市川喜洋 副会長：江夏孝次/平岩幸一 編集長：平野光祥

〔協力〕 伊藤進朗/大石旭/大高意具/奥村秀夫/近藤勤/近藤宗保/澁谷茂/鈴木住一/鈴木幹郎/高柳一男/種村七洋/俵忠昭/辻村信治/都筑吉則/都築義寛/手島篤三/西山育男/藤浦平/加藤栄一/加藤善啓/

〔参考資料〕 連尺小学校開校120年誌「連尺今・むかし」/ 藤井建著「名鉄岡崎市内線-岡崎電車物語」  
〔表紙写真〕 (左上から) 八丁味噌蔵、鉾船神事、岡崎城、図書館交流プラザりぶら、二七市(ふないち)



登録有形文化財カクキューは(合)八丁味噌の本社と味噌蔵で、他に(株)まるや八丁味噌がある



連尺少年団の分列行進。当時の団結と規律が招来したものは？(出典：岡崎空襲を記録する会)



岡崎城と龍城神社。徳川家康公の生誕地。神社は家康公とその家臣本多忠勝を祭神とする



純情きらり 宮崎あおいの手形(公園各所に他の出演者の手形もある)



国道1号 龍城橋より「りぶら」全景。文化都市岡崎に相応しい市民に愛される図書館



殿橋と高層マンション群の眺望。中心地ならではの住環境の良さが再評価されている



改修後の伊賀川。浸水被害の解消を目的としピオトープにも配慮された素敵な散策路が誕生



康生交番。学区民からの交番移転陳情のおかげで、中心市街地に「城下の交番」が誕生した

# 連尺学区 まちのなりたち

一八六九年 ■ 明治2

一八七一年 ■ 明治4

一八七三年 ■ 明治6

一八八七年 ■ 明治20

一八九三年 ■ 明治26

一九一六年 ■ 大正5

一九一八年 ■ 大正7

一九二三年 ■ 大正12

一九三〇年 ■ 昭和5

一九三六年 ■ 昭和11

一九四一年 ■ 昭和16

一九四五年 ■ 昭和20

一九四七年 ■ 昭和22

一九四九年 ■ 昭和24

一九六一年 ■ 昭和36

一九六三年 ■ 昭和38

一九六六年 ■ 昭和41

一九六八年 ■ 昭和43

一九七一年 ■ 昭和46

一九七三年 ■ 昭和48

一九七五年 ■ 昭和50

一九七六年 ■ 昭和51

一九七七年 ■ 昭和52

一九七八年 ■ 昭和53

一九八二年 ■ 昭和57

一九八七年 ■ 昭和62

一九八九年 ■ 平成1

一九九六年 ■ 平成18

二〇〇六年 ■ 平成20

二〇〇八年 ■ 平成22

二〇一〇年 ■ 平成24

二〇一五年 ■ 平成29

二〇一六年 ■ 平成30

允文館開校

玉山学校開校

岡崎城が取り壊される

尋常小学連尺学校となる

八丁味噌が宮内庁御用達となる…1

岡崎市制施行(7月1日)

岡崎電燈が八帖町に火力発電所を建設

岡崎警察署が允文館跡にできる

岡崎市立図書館が岡崎公園内にできる

市内電車が殿橋―井田間に延長

日本最初の省営(国鉄)バス岡多線が開通

連尺学校に市内初の25mプールができる

岡崎市連尺国民学校と改称される…2

岡崎空襲によって、学区の大部分が被害を受ける

岡崎市立連尺小学校と改称される

岡崎城が復元される…3

城北中学校開校

八帖下水終末処理場が完成

「花と産業科学大博覧会(岡崎博)」開催

連尺小学校が城北町に新築移転する

連尺小学校跡地に岡崎スポーツガーデンができる

岡崎ショッピングセンター「レオ」オープン

国道1号線公害対策協議会結成

国道248号線に暴走グループが出現する

中部土地画整理事業により城北町・末広町ができる

八帖土地画整理事業が完工する

岡崎公園に「三河武士のやかた家康館」ができる

柿田川・伊賀川暗渠工事が完成し、緑地帯ができる

中心街で配電線の地中化工事が完成する

八帖交差点に全国初のスクランブル形式の歩道橋ができる

NHK連続テレビ小説「純情きらり」のロケ地となる…4

「図書館交流プラザ りぶら」ができる…5

中心部に超高層マンションが竣工…6

平成20年8月末豪雨の災害をうけて伊賀川改修工事が始まる…7

城下の交番「康生交番」ができる…8

岡崎公園で家康公顕彰四百年記念事業開催

岡崎城で国内最長の石垣が発掘される

## 学区のまつり

白山神社祭礼	5月第3土・日曜日
神明宮祭礼	5月第2土・日曜日
菅生神社祭礼	7月19・20日
花火大会	8月第1土曜日
甲山八幡宮祭礼	10月第1土・日曜日
諏訪神社祭礼	10月17日に近い日曜日
新田白山神社	10月16・17日に近い日曜日

## 学区の特色

連尺学区は、国道1号と248号が交差し、県道岡崎足助線(通称「電車通り」)もある、岡崎市のまさに中心地です。矢作川に菅生川(乙川)伊賀川に早川もあります。

バスの路線も東岡崎から出る南向き以外の大半の路線が殿橋、康生のバス停で乗降できます。名鉄の岡崎公園前駅も愛知環状鉄道の中岡崎駅もあり、江戸時代から現在に至るまで、まさに岡崎の交通の要衝と言えます。

## 江戸時代からの歴史

岡崎城のお膝元というより、江戸時代は学区の大半は岡崎城内でした。城内は侍屋敷で、城外は町屋(職人とお城関係の小役人の住居)でした。さらに松平家ゆかりの寺社も多く存在しました。外堀に隣接する「二十七曲り」沿いの連尺、本町は当時でも賑やかで立派な商業地でした。材木町、魚町、八帖町などは、お城に関わる職人の街であり庶民の街でした。明治維新の後、岡崎城は取り壊され国道1号は東から西へと真直ぐに学区内を貫通し、武士の住居であった康生地区は明治以降、官庁街に生まれ

変わり主要な銀行などもできました。そして戦後復興を経て官公庁が学区外に移転、その跡地を土地整備と共に大型開発で当時全国でも開発のモデルとされた流水プールを併設させた大型の商業施設群が誕生しました。一方、学区の西部、八帖地区は、かつて伊賀川や早川の氾濫も多く湿地帯でしたが、伊賀川の移設から始まる地盤整備と大規模な区画整理を経て国道248号の建設と共に住宅地として、またロードサイド型商業地として大きく発展しました。

## 観光とイベント

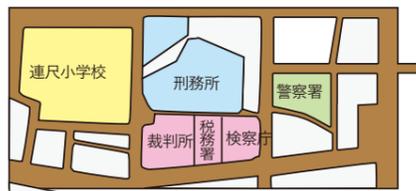
戦後、復興された岡崎城の天守閣は岡崎公園だけでなく、岡崎市の象徴です。徳川家康公の生誕地として全国から多くの観光客が訪れています。園内には家康館や能楽堂、巽閣、茶室等もあり岡崎市の観光に大いに寄与しています。家康行列が繰り広げられる春の桜まつりと夏の観光花火大会は、岡崎市を代表する2大イベントですが、近年人気の秋のジャズストリートと市民まつり、家康公没後400年で再注目された冬の家康公生誕祭と四季折々の行事、さらに建設予定の乙川人道橋(仮称)と周辺の乙川リバーフロント地区整備計画の実現で、懐かしい「康生」の復活だけでなく、連尺学区は岡崎市の新たな観光都市化の中核として発展が期待されています。



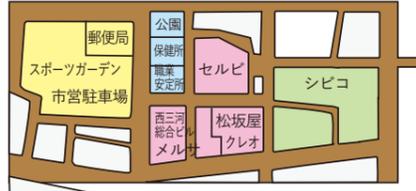
### 連尺小学校移転からりぶら誕生へ

#### ★西康生の町の変遷

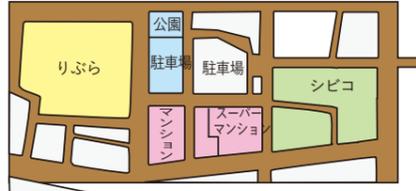
明治20年開校の連尺小学校は、明治41年に西康生の地に校舎が移り昭和41年に現在の城北町に新築移転するまで約60年間、岡崎市の官庁街の一角にありました。周辺には明治から大正にかけ、裁判所・税務署・警察署・刑務所・額田郡役所もあり康生町には郵便局、岡崎公園入口には県立岡崎病院、大正時代には市立図書館、市役所(籠田町)などもありました。その後、各々転出し、連尺・本町・康生と一体になった商業地として発展してきました。ちなみに図①では官庁街の名残をよく留めています。昭和30年代後半から官公庁の移転が進み、跡地には市街地再開発公社の働きで大型の商業ビルが建設され一大ショッピングゾーンができました(図②)。またその周辺には、平成を境に高層マンションが市内の各所に先駆け建設されました。現在は学区内の至るところに高層マンションが林立しています。図書館交流プラザりぶら(図③)が新しく平成20年に誕生したことは学区のこれからの発展(歴史と文化溢れる街)を示しています。



図① 昭和33年の西康生



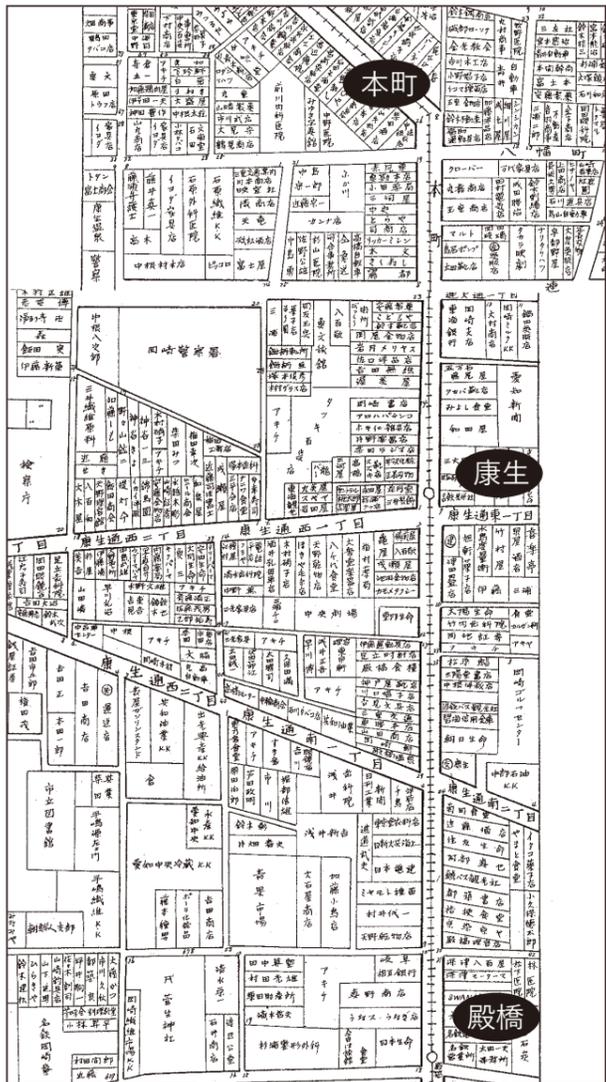
図② 平成5年の西康生



図③ 平成27年の西康生  
参考:「連尺 今・むかし」

#### ★戦後復興

戦前から繁華な商店街であった連尺・康生。本町など市内の中心街は第二次世界大戦の空襲でほとんど消失。岡崎市は昭和20年9月に戦災復興本部を設置、国からも戦災復興都市に指定され、国・県・市が一体となって戦災復興に取り組みました。殿橋から本町への幹線道路は幅員を拡大、路面電車は複線化され商店街にもアーケードや街路灯ができ岡崎市は『戦災復興モデル都市』に選ばれました。



昭和30年頃の商店街

出展: 当時の住宅地図より



撮影: 野崎昭三

撮影: 野崎昭三

撮影: 白井良和

＜連尺学区には3ヶ所の市電の停留所があり、本町からは単線となっていました。昭和37年にバス路線に転換されましたが、現在も電車通りの通称で呼ばれています。また、学区には12ヶ所のバス停があり交通の便が良いところです。＞



旧連尺小学校  
昭和40年頃まで国道248号から矢作川までの一帯は水田だった。国道248号や愛知環状鉄道ができたことにより激変!水田から文教地区へ



新田白山神社  
祭礼時には鳥居を彫り出した石の狭い空洞を潜り、厄除けとする風習がある



江戸時代の岡崎城絵地図



清明神社(安倍清明ゆかり)



唐弓弦(とうのゆみづら) 森権治郎邸 (綿打ち用の弓の「弦」の看板)



二七市(毎月2と7のつく日に開催)



西岸寺 岡崎藩の赤門



岡崎空襲被災地(S20.7.20)



二七市



旧官庁街 警察署・検察庁・刑務所 裁判所・税務署



西岸寺



平成28年に発見された菅生川端石垣



カクキュー八丁味噌の郷



まるや八丁味噌

# 連尺学区まちなものがたりマップ

行ってみよう! 見てみよう!  
家康の生まれたお城のある町 岡崎のルーツ

旧施設  
純情きらりロケ地



岡崎城・岡崎公園  
花火大会、桜まつりなど、四季を通じて多くの市民や観光客が訪れる



菅生神社  
菅生まつりの鉦船神事。船上から菅生神社に向かって花火を奉納する

### 康生通東

昭和20年の岡崎空襲で、町全体が火の海に包まれ廃墟となりました。復興事業により道路も20mに広がり、商店街として綺麗な町に生まれ変わりました。当町内は市道伝馬線の中心に位置し、戦前からの専門店が軒を並べ、今では商店街とマンションが平衡して立ち並ぶ街となっています。交通の便が良い為、ご年配の方にも住みやすい環境となり、人口の流入が始まっています。



家康公生誕の街モニュメント

### 西康生

龍城橋東より岡崎公園入口まで多くの商店が軒を並べていましたが、岡崎空襲で町並みが一変しました。その後、国道の拡幅工事、官庁街・小学校の移転、スポーツガーデン・大型商業施設の開設等で、町は絶えず変化してきました。りぶらの開館、高層マンションの建設等でこの10年間に世帯数は50%増加をしています。新旧の住民の交流も活発に行われて、「この町に住んで良かった」と思っている町づくりを始めています。



龍城橋渡り初め式

### 康生町

昭和22年4月西康生から分離し、新康生町として発足しました。町内にある新田白山神社に、市指定天然記念物の大くすがあります。樹形もよく市街地の中心部にある巨樹として評価も高く、ご神体として崇敬されています。



新田白山神社の大くす

### 南康生

国道1号と電車通りの交差点を囲む当町は100年前から商店、金融機関、医療施設、会社の営業所、旅館ホテル等あらゆる機能を持つ商業地です。近年はやや沈滞気味ですがマンション5棟の進出で改めて町の住みやすさに評価が高まり、「康生に住みたい」といわれる事は地元には嬉しいことです。岡崎城と共に岡崎の夏の風物詩、花火大会は菅生神社と氏子が何百年と伝えるわが町の誇りです。



菅生神社鉾船神事

### 末広町

末広町は、昭和51年に元能見町より分離し東は国道248号、西は早川緑道で南北650m・東西170mの細長い町です。元は泥田で、大正時代に整備され大水田地帯になりました。昭和30年代に国道248号、旧岡多線が開通し住宅地帯に変遷しました。城北保育園・連尺小・城北中・岡崎西高があり“徒歩10分以内”で通える子供の教育に優しい大変住みよい町です。



耕地整理の記念碑

### 城北町

隣接する連尺小学校と城北中学校が町内にあり、高齢化が進むわが町に子どもたちの元気な姿と明るく響き渡る声が活気を生み出してくれています。また、伊賀川と柿田川緑道の空間が四季の移ろいを感じさせてくれる居心地の良い環境があります。老若男女が融合する穏やかな町です。



柿田川緑道

### 田町

東海道二十七曲りが町を南北に通る、国道1号が東西に貫く田町は国道の拡幅工事で47軒が引込み、風通しが良くなったぶん寂しくもなりました。岡崎では銭湯が少なくなっていますが、明治より続く銭湯が残っており一日の仕事の疲れを癒してくれます。また町内にグループホームができ、これからの介護サービスを担ってくれます。



龍城温泉

### 板屋町

板屋稲荷神社は、文化2年の創立でもとは稲荷社といわれていました。明治43年、町内鎮座の神明宮(天保元年創立)を合祀して板屋稲荷神社と改称しました。また、大正2年田町の稲荷社(明和年中勧請)を合祀し、この時、社務所及び鳥居も造立されました。現在の建物は新しく建て直されたもので、節分の豆まきや八将公祭の行事の他、町内の集会所としても利用されています。



板屋稲荷神社

### 八帖町

岡崎城から八丁(約870m)離れていたことからその名がついた八丁村。そこで造られていた味噌が八丁味噌です。現在でも2軒の蔵元があり、味噌蔵の立ち並ぶ狭い路地は昔の風情が残っています。「純情きらり」のロケ地になり出演俳優の手形探しも楽しみです。平成24年に岡崎市景観形成重点地区に指定され、旧東海道を軸に建物保全に取り組んでいます。



八丁味噌蔵通り

### 八帖南町

町は過去、矢作川、乙川及び早川に囲まれた低地帯の農地でした。この一帯を埋め立て、健全な市街地造成と有志が結束し、整理事業に着手、5年の歳月を費やし昭和53年に新しい住宅地が誕生しました。その事業の一環として造成された諏訪公園の一角には記念碑が建てられています。現在では、松葉地区を含め280世帯を超える住宅とアパート等が建ち、住環境に恵まれた素晴らしい町となっています。



記念碑

### 八帖北町

連尺学区で一番面積が大きくて、世帯数も一番多い、そのうえ国道1号・248号が通るスケールの大きな町です。しかし、そんな大きな町にもかかわらず人の絆が大切との思いから、八帖北町の老人クラブである「八北ふれあいクラブ」の活動は、市内で一番活発と自負しています。これからも、町民の交流を活発に、安全で安心な町づくりを目指します。



ふれあいクラブの活動

### 中岡崎町

中岡崎町は、昭和53年に八帖町松葉と板屋町の一部が合併して出来た新しい町です。町内の松葉通りは旧東海道です。名鉄と愛環鉄道が交差する所に岡崎公園前駅・中岡崎駅と2ヶ所に駅があります。駅前通りには桜並木があります。4月の岡崎市の桜まつりには町内会で管理する提灯で桜の木のライトアップを行なっています。



中岡崎駅

# わが町の自慢！ まちのたからもの 新しい人口流入が始まる 住みたい学区 NO.1 を目指して

町に大型のマンションが増え、郊外から中心部へ移住される方が増加しはじめています。連尺学区 22 町、それぞれの歴史・文化・祭り・活動を紹介します。

### 材木1

昭和32年北康生町より材木1丁目町名変更。菅生神社の氏子になり大祭には威勢よく法被姿で参加していましたが、能見神明宮の氏子に変更され大祭には厳かに紋服・礼装で渡御に参加。神明宮の諸行事には11町の氏子仲間で御加護が頂けるよう対応しています。大型店舗の跡地に3棟大型マンションが建設され、まちの世帯数も大幅に増加して、静かなながらも活気のある町になっています。



材木1丁目の通り

### 材木2

町内に御旗公園という公園があります。お堀を戦後埋め立てた時にできた公園です。御旗公園とは変わった名前だと思っていました。その名前の由来は、秀吉の命を受けた田中吉政が、天正18年城地拡張の必要から当地天神山を切り開いた時、天神山に稲前天神の神領がありました。その神社の御旗が祭日に立てられた場所が御旗場と言われ、略して御旗と呼ばれる地名になりました。



御旗公園

### 材木3

我が町は、岡崎城の外堀の内側に位置し、東海道二十七曲りが町の中心を通り、江戸時代より唐弓弦商を営んでいた森権治郎氏の家が残る歴史のある城下町です。古くは木町・西材木とも呼ばれていました。空襲で火災焼失した町の一部が、材木三丁目と変わりましたが町の八割以上は変わらず材木町です。歴史と戦争の爪痕が町名に残る事実を地域で語り継いでいきたいと思えます。



唐弓弦看板

### 魚町

古くは岡崎城下町の一角をなした魚町。現在では若い家族(Uターンや転入)も増え、初夏の白山神社祭礼では、老若男女が一緒になり盛り上げ地域の絆を強めています。近くには小中学校のほか岡崎公園や図書館交流プラザりぶらがあり、買い物は徒歩圏内で、郊外へ出かけるにもバス停は近く、便利で落ち着いた住みやすい町です。



みんなで協力資源回収

### 西魚町

かつて矢作川まで田んぼで、遠く西の空まで見渡せた西魚町。戦争当時、屋根で竹の先に縄を縛り火の粉を払っていた若者は歳をとり、平成20年8月末豪雨で多くの家が移転、近くには高層マンションができるなど町の様子は変わりました。河川改修事業で伊賀川は整備され、川と共生できる静かで落ち着いた環境になりました。「向こう三軒両隣」を合言葉に住みやすい町づくりをめざしています。



伊賀川からの町並み

### 八幡町

八幡町には昔から市(いち)がありました。始まりは戦後の配給時代に物不足解消の為に中央マーケットができ、その後、表八幡・裏八幡と二つの名前の町内が一つの名称となり、八幡町ができました。昭和30年より二七市と名前をつけた朝市が始まり今につながっています。町民の方のご協力、市は60年続き、これからもがんばってまいります。



二七市

### 連尺通

お堀の中の商店街として490年の歴史をもつ連尺通り、江戸時代には東海道として栄えました。松尾芭蕉も坂本龍馬も志を抱いてこの道を歩いたことでしょう。今はお店の後継者たちが力をあわせて新しい時代に合った街づくりに励んでいます。甲山から吹いてくる清浄な空気を吸って、この町を歩いてみたら先人の足跡が見つかるかもね。



東海道二十七曲り石碑

### 本町通1

～秋葉神社由来(常夜燈)～  
本社は文政5年に設立、天保3年岡崎城内対面所より出火、烈風に煽られ未曾有の大火となり、中心街3百余戸が焼失しました。秋葉神社は防火の神であり、常夜燈に火を灯して町の辻々を明るく安全にと願う庶民の心からの思いでした。昭和20年の岡崎空襲で破損、同24年に移転、同53年にシビコ西広場にその姿を原型のまま縮小し安置しています。



常夜燈

### 本町通2

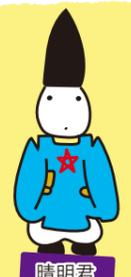
岡崎の中心街である東西に走る康生通と南北に走る本町通・シビコ北側の一角が本町通2丁目になります。小さな町ですが岡崎の歴史に関っています。二十七曲りの13.14番目で、まさに真ん中に位置しています。今では週末になると岡崎散策の方々が歩かれています。商店街の北に位置し医療関係、喫茶店、コンビニがあり一服する場所でもあります。菅生祭の本町連として参加し、岡崎文化の中心を担っています。



本町2丁目交差点

### 本町通3

昔は横町と呼ばれ、岡崎のパワースポット! 晴明君! 寛政12年に造営された陰陽師で有名な安倍晴明を祀った晴明神社があります。晴明お守り・魔除け木札・ストラップなどのグッズを商店街のメンバーで手作り、販売をしています。秋には、フリーマーケット・街角ジャズ・晴明占いなどのイベントを開催します。伊勢湾台風以前に建設されたアーケードも健在です。



晴明君